

1 学校教育目標

校訓「向学 敬愛 礼節」のもと、商業及び体育の専門的な教育活動を通して、世界に誇れる日本の伝統精神としての礼節や豊かな感性、思いやりを育み、時代の変化に対応・挑戦できる資質と態度を養い、企業や大学等との連携・協働を図り、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。

(1) 教育スローガン「人財育成 ～人生の財産づくり～」

(2) 東高生に身につけさせたい「9つの資質・能力」

校訓	向学	敬愛	礼節
資質・能力			
知識・技能	① 挑戦力	② 肯定力	③ 状況把握力
思考力・判断力・表現力等	④ 創造力	⑤ 協働力	⑥ 発信力
学びに向かう力、人間性等	⑦ 突破力	⑧ 貢献力	⑨ 傾聴力

2 本年度の重点目標

(1) 人間性と人間力

- ア 凡事徹底により基本的生活習慣(あいさつ・遅刻指導の徹底)の確立
- イ 豊かな感性や思いやり(コミュニケーション能力)の育成
- ウ 社会の一員としての自覚と責任感(態度教育)の育成

(2) 相互理解と対応

- ア 道徳教育・人権教育(命の大切さ・いじめを許さない)の推進
- イ 共同体感覚(相互尊敬・相互信頼)の育成
- ウ 環境(社会の変化・グローバル化)に応じた態度の育成

(3) 学力・競技力の向上と希望進路の実現

- ア 自己管理(心身の健康)能力の育成
- イ 育成・自己実現のための学力(基礎・基本)の向上
- ウ 専門教育(商業・体育)の充実を図り、主体的に自己実現を目指す態度の育成
- エ 授業や行事において主体性を育成(自ら考え、選択・表現できる活躍の場を設ける)

(4) 学校の魅力化

- ア 環境(安心・安全)整備の徹底
- イ 地域に求められる人材と世界に羽ばたく人材(社会性・向上心)の育成
- ウ 失敗を恐れず、新たなことに取り組む(挑戦する)学校

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標達成にむけた取組	具現化するための工夫がされているか。	教職員の共通理解を徹底する。	①東高ルーブリックを策定する。 ②東高3か年計画を策定する。	B	○東高ルーブリックと東高3か年計画を策定したことで、教職員の共通理解を促し、職員一丸となった指導の契機となった。 ●年度途中で東高ルーブリックを策定したため、職員全体に浸透していない。東高ルーブリックを活用して、生徒に身につけさせたい力を明確にして、職員一丸となった指導に繋げる必要がある。
	業務改善・働き方改革	業務の効率化と平準化が進んでいるか。	I C Tを活用して業務の効率化と校務の平準化を図り負担を軽減する。	①I C T研修を実施し業務の効率化を図る。 ②育児時間、時差出勤等を実施できる環境を構築する。	B	○育児時間、時差出勤等を実施できる環境が整っている。教職員に対する学校評価では、業務改善と働き方改革が進んでいると7割弱が肯定的意見である。 ●特定の教職員への業務が偏り、業務の平準化に課題がある。主査・副査を設けて人材育成を行う必要がある。
学力向上	授業の充実	授業の工夫や改善がされているか。	授業評価アンケートにおいて、肯定的な回答が70%を超える。	①研究授業週間を設定する。 ②本校の現状や教師のニーズに応じた研修を行う。	B	○研究授業週間と公開授業週間を重ねて計画したことで昨年よりも保護者の参観が増え、教員、生徒によって良い刺激となった。 ○今年度より授業評価アンケートを実施し、教師の授業改善につなげ、生徒自身の授業への取り組み方を振り返る機会とした。 ○授業評価アンケートの結果、授業の充実に関する項目で肯定的な回答は95.4%だった。 ●授業改善に関する研修を企画することができなかった。アンケート等で教師のニーズを吸い上げたい。
	個に応じた指導	生徒に応じた効果的な指導・支援が行われている。	学校評価アンケートにおいて、肯定的な回答が70%を超える。	各学年、教科における考査前学習会や個別指導により生徒指導・支援を行う。	B	○学校評価アンケートの結果、個に応じた指導に関する項目で肯定的な回答は87.7%だった。 ○学年や教科担当者で成績不振者を把握し、考査前学習会や課題提出等、個別に粘り強く指導をしていた。 ●基礎学力や学習習慣の定着に向けての取り組みができなかった。学校全体の課題と認識して考えていく必要がある。

キャリア教育（進路指導）	進路指導の充実	生徒の進路希望に応じた適切な支援が行われているか。	進路決定率が100%になる。	①進路希望調査の年2回実施とその後の検討会の実施 ②進学希望者向け個別指導の実施 ③適切な外部機関との連携	B	○担任・進路部面談や検討会を経て、家庭の経済状況や心身の特性など、個別の状況を把握して支援を行い、希望の進路決定につながった。 ○受験済み生徒における進路決定率は12月末時点で98.5%（65/66）である。 ●5名が未受験である。 ●難関校及び国公立大学受験者の不在。
	勤労観と職業観の涵養	自己、社会、進路（職業、上級学校）への理解に基づき、自己実現に取り組もうとしているか。	①3年生が志望理由書等において、自己の良さや卒業後の目標について適切に述べている。 ②1、2年生が総合的な探究の活動のレポートで、地域の課題について発見している。	①キャリア・パスポートの作成と面談を通じた自己理解の促進 ②インターンシップや総合的な探究の時間「八代探究」等、社会で学ぶ機会の確保	B	○受験済みの3年生全員が、自らの適性や社会課題、企業理解にもとづいた志望理由を述べていた。 ○探究のレポートや発表スライドより、1・2年生のおおよそは地域の課題について発見していた。 ○年間計画に沿ってインターンシップ等の各種取組を実施した結果、学校評価アンケート「学校は生徒が自ら進路を考える環境を整えている」において、「大変そう思う」の割合は昨年度の28.9%から本年度は44.3%へ増加した。 ●探究の指導ノウハウの蓄積。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	遅刻が減少したか。	年間遅刻者数を昨年度より10%減らす。	①朝の遅刻指導実施 ②月4回以上の遅刻者指導の実施	A	○朝の8：30分遅刻は、1学期は平均20%減、2学期は11月まで平均28%減、トータル25%減であった。
	問題行動の未然防止	特別指導件数が減少したか。	特別指導件数を10件以内にする。	各部・学年、その他関係機関と情報交換を密に行い、事前指導と組織的対応を実践する。	C	●特別指導件数が14件22名と増加した。生徒への心の指導や事前指導、また特別指導至るまでの段階的指導が必要だと感じる。
	生徒会活動の活性化	生徒が主体性を持って学校行事等に参加したか。	生徒会主催の行事等の企画立案、実践を昨年度の反省点を生かし、創意工夫して計画的に行う。	①月に一度委員会活動日を設ける。 ②交通委員によるヘルメット着用とツーロック調査をする。 ③生活委員による身だしなみ習慣やあいさつ運動を実施する。	B	○①各委員会が必要に応じて開催することが出来た。また、東高祭（文化の部）でスライド発表ができた。 ●②学期に1回は実施できたが、目標である100%にはほど遠い結果であった。 ○③実施していない。生活習慣の大切さについて生活委員長が全校生徒に向けて発表し、全校生徒の意識向上に努めた。

人権教育の推進	推進体制の確立	人権教育推進委員会による計画的かつ組織的な人権教育が推進されたか。	①人権教育推進委員会で人権教育推進上の課題等を共有する。 ②レポート研修会を通して互いの教育実践の成果や課題等について情報交換を行う。 ③校内研修の充実	①人権教育推進委員会において課題の確認と情報共有を行い、連携して学校全体での推進体制を構築する。 ②本校生徒に関する教育実践交流（人権教育レポート研修会等）を実施する。 ③現地研修会や各種研修会への積極的な参加及び各研修会の復講	B	○人権教育推進委員会を毎月開き、情報共有を行い、校内外の人権教育推進を行うことができた。 ○人権教育主任以外の先生に、市外で開催される研修会に参加してもらうことができた。 ○人権回覧板を通して、各種研修会の復講や八代人同研だより等の紹介を行った。 ●人権レポート研修会（3月）の充実を図る。 ●人権LHRの指導案早期作成。委員会での検討。 ●校外研修参加への呼びかけ。年度当初の希望調査。 ●人権教育の手引きの見直し。
	命を大切にす る心を育む指 導	すべての教育活動において、自己や他者を尊重し、命の大切さについて学ぶ指導できているか。	一人ひとりの存在を尊重し、それぞれがかけがえのない存在であることを、学校全体の指導の中で理解させる。	①生徒理解研修を年間3回実施する。 ②人権を確かめ合う日（毎月11日）に合わせて人権啓発係が挨拶運動を行う。	B	○生徒理解研修を4月、5月、10月に実施し、生徒の情報共有と対応を確認した。 ○7月、9月、11月に人権を確かめ合う日挨拶運動を実施した。 ●自他の人権を尊重する思いを、実際の行動に示す生徒の育成。
いじめの防止等	いじめの理解 といじめの早 期発見と組織 的対応	いじめに対する認識を深め、早期発見し組織的に対応することができたか。	①生徒理解及びいじめの対応に関する研修を実施する。 ②心のアンケートやスクールサイン等でのいじめが疑われる事案から即日対応を行う。	①生徒情報交換会において、生徒の様子や気づきを関係職員で共有し早期対応を行う。 ②いじめが疑われる事案からいじめ問題対策委員会で会議を行い、迅速に対応する。	B	○2回の生徒情報交換会において、関係職員で必要な生徒の情報を共有し、適切に対応にした。 ○心のアンケートをもとに、いじめを訴える生徒に対して、迅速かつ組織的に対応を行った。 ○生徒間のトラブルに関しても、早期に対応したことで、4月から12月までのいじめ事案は2件で、いじめの未然防止にもつながった。
	家庭や地域、 関係機関との 連携	関係機関との連携を図り、学校以外の相談窓口について生徒や保護者に周知したか。	学校評価アンケートの「いじめ問題の相談窓口の周知」の項目を生徒、保護者とも75%以上の肯定的な回答を得る。	①合格者説明会やPTA総会において保護者に対して様々な相談窓口やチェックシートを配付する等適宜情報提供を行う。 ②すぐーを活用して遅滞なく保護者に周知を行う。	B	○合格者説明会、PTA総会に加えて、相談窓口等を生徒へ配布を行った。 ○面談週間や外部の相談窓口等保護者へすぐーでも告知を行った。 ○学校評価アンケートで、いじめの相談窓口及び対応について生徒、保護者の平均79%が肯定的な回答であった、。

地域連携（ コミュニティ・スクール）	保護者・地域との連携	<p>①PTA総会等への保護者が積極的に参加しているか。</p> <p>②アンケート等により保護者の学校行事参加の意見をくみ取っているか。</p> <p>③地域行事、ボランティア活動に生徒保護者教職員が参加しているか。</p>	<p>①PTA総会の出席率を50%以上とする。</p> <p>②東高マーケットの食バザーや馳走会への保護者参加をえる。</p> <p>③地域行事（八代妙見祭）への参加。</p>	<p>①土曜日の午前中に開催することで出席率を向上させる。</p> <p>②PTA本部役員を中心に保護者参加の呼びかけを依頼</p> <p>③同窓会やPTA等の関係機関との連携を図る。</p>		<p>①○午前中開催、授業参観の実施による参加率の向上を目指した。</p> <p>●PTA後援会総会 96名出席、出席率 38.1%（前年度 30.4%）コロナ禍以降出席率の低下が見られる。今年度は微増したが、継続的な工夫が必要である。</p> <p>②○東高マーケット協力保護者数 58名 積極的な参加、協力が見られた。</p> <p>③○同窓会を中心に生徒の積極的な参加もみられた。</p>
	開かれた学校づくり	学校と地域社会（上級学校、自治体、企業等）が対話して一緒に考え、協働的に教育活動を実践しているか。	入学から卒業までの3年間において、地域と連携した教育活動に参加した割合を100%にする。	<p>①総合的な探究の時間「八代探究」について計画を具象化する。</p> <p>②地域連携の取組において、目的の共有と事後の振り返りを実施する。</p>	B	<p>○総合的な探究の時間では、1年生は計9回の市役所等の出前講座と各レポート作成、2年生は課題設定と中間発表を実施できた。</p> <p>○校外の約80に及ぶ企業・上級学校等の協力を得て、多様な教育活動を展開できた。</p> <p>○地域事業所で実施した2年生のインターンシップにおいては、ルーブリックの作成により目的を共有し、事業所からは目的に応じた生徒への助言を頂けた。</p> <p>●生徒が自ら地域に関わる取組の事例はわずかである。</p>
	防災意識の高揚	<p>①日頃からの防災意識の向上に取り組んだか。</p> <p>②避難訓練や防災に関連する情報提供が効果的にできているか。</p>	<p>①防災教育のあり方を検討する。</p> <p>②命を守る具体的な行動をとることができる。</p>	<p>①職員の防災関係の研究大会等への参加</p> <p>②シェイクアウト訓練、垂直避難訓練、火災訓練の実施</p>	A	<p>○シェイクアウト訓練、垂直避難訓練、防災避難訓練を実施し、本年度は昨年度と違い予告しての防災避難訓練に取り組んだ。八代消防署からも指導をいただき、水消火器での実技訓練も実施できた。訓練事後アンケートでは98.9%の生徒が「放送を聞いて安全に避難することができた。」と回答した。</p>

その他	商業の専門性の向上	<p>①ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てることができたか。</p> <p>②商業の専門的な知識と技術を習得するために、資格取得の指導を充実させ進路実現に活かすことができたか。</p>	<p>①販売実習「東高マーケット」や校外活動の成功に向けて、机上の学習及び様々な体験的学習をとおして、望ましい勤労観・職業観を育成する。</p> <p>②各種検定試験の合格率を昨年度より向上させるために、個に応じた指導を充実させる。また、学校評価アンケートで専門性の向上に対して肯定的な回答を80%以上にする。</p>	<p>①商業専門科目の授業および学習評価について工夫改善を行い、知識・技術の取得、実践力の向上を図る。</p> <p>i 日々の授業と個別指導の充実 ii 商業系部活動の活用 iii 外部指導者による講演等で意識を高揚させる。 iv 将来の進路を意識させた検定試験の指導を行い、学習活動を意欲的にさせる。</p>	<p>B</p> <p>○東高マーケットでは、マーケットリーダーや店長、各部長の生徒を中心に、生徒自ら企画運営に取り組めた。主体的に活動したことで、勤労観や職業観の育成につながられた。また、本年度は、開催場所を学校に移し、2,000人以上の来場があり、学校のPRも併せてできた。</p> <p>●生徒の中には主体的な活動ができず、他人任せの生徒もいた。生徒たちが主体的に活動する場面をさらに増やしていく指導が必要である。</p> <p>B</p> <p>○日頃の学習の成果を試すことと学力を確立するために各種検定試験に挑戦させた。授業を中心に学習会、個別指導を充実させることで、資格取得を意欲的に取り組めた。</p> <p>○日商簿記（16人）、各種全商検定1級など上級資格取得を目指し、合格者も出せた。</p> <p>●生徒の習熟度に応じた指導体制の整備を行う必要がある。</p>
	普通科スポーツコースの専門性の向上とスポーツリーダーの育成	<p>①競技力は向上しているか。</p> <p>②地域のスポーツ振興に貢献する人材が育成されているか。</p> <p>③進路の目標が達成されているか。</p>	<p>①県大会で上位入賞と九州・全国大会出場及び入賞</p> <p>②爽やかな挨拶・返事・身だしなみの徹底・基礎学力の向上</p> <p>③学校評価アンケートで専門性の向上に対して肯定的な回答を80%以上にする。</p>	<p>①重点種目を中心とした指導の強化</p> <p>②毎時間の授業に取り組む態度の醸成</p> <p>③体育科職員と部活動顧問の連携した生徒指導の推進</p>	<p>B</p> <p>○インターハイ・九州大会にバドミントン部が、出場した。</p> <p>○卒業生で地域のスポーツ振興に貢献している者も出てきている。（市役所・クラブチーム等）</p> <p>○進路は概ね目標が達成された。</p> <p>○生徒指導を受ける生徒が数名出ており、生活面での改善が必要と考えられる。</p> <p>○学校評価アンケートで専門性の向上に対して肯定的な回答が90%以上あった。</p>